

## ★ マメノメイガ、オオタバコガ(小豆) 情報

発生量が平年比多い状況です  
今後の発生動向に注意して下さい

9月中旬に実施した小豆の巡回調査では、マメノメイガ(写真1)の寄生株率は28.4%(平年比やや多い)、100花・莢当たりの寄生虫数は10.3頭(例年比多い)、発生ほ場率は100%(平年比多い)と、発生量が平年比多い状況です(表1)。

また、オオタバコガ(写真2)の寄生株率は7.5%、25株当たりの寄生虫数は2.4頭、発生ほ場率は87.5%であり(表2)、発生ほ場率は平成20年以降で最も高くなっています。

大阪管区气象台9月21日発表の近畿地方の1か月予報では、「向こう1か月の気温は平年並または高く、降水量は平年並」と予想されており、今後もマメノメイガやオオタバコガの発生を助長しやすい状況にあると思われま

す。現在、小豆は開花期～着莢期にあると思われま

すが、巡回調査では、花を食害するマメノメイガの幼虫(写真1左上)やオオタバコガの幼虫(写真2)が多数見られました。さらに生育が進んでいるほ場では、莢内へ食入するマメノメイガの幼虫(写真右上、下)も見られました。幼虫が莢内へ食入すると防除効果が劣りますので、開花始めから10日間隔で2～3回防除することが重要です。また、他の害虫(アズキノメイガ、サヤムシガ類、ハスモンヨトウ等)も、ほぼ同時期に発生するので注意してください。さらに、オオタバコガは莢肥大期以降も発生を続けるので、今後の発生動向にも注意してください。

なお、農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用してください。最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」をご覧ください(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。



写真1 マメノメイガによる小豆の被害

左上: 花への食害、やがて莢の形成とともに莢を食害する  
右上: 莢の食入口(矢印)は糞で塞がれていることが多い  
下: 莢への食害



写真2 小豆の花を食害するオオタバコガ

表1 小豆におけるマメノメイガの発生状況(9月中旬調査)

年	寄生株率 %	200花・莢当虫数 頭	発生ほ場率 %
24年	28.4 平年比やや多い	10.3 例年比多い	100.0 平年比多い
平年値	11.4	1.4	53.3
23年	1.0	0.3	25.0
22年	4.0	1.0	37.5
21年	3.0	0.8	50.0
20年	3.2	0.8	50.0
19年	30.0	4.7	90.0
18年	4.4	0.4	20.0
17年	7.6	2.1	80.0
16年	48.8	-	100.0
15年	0.8	-	20.0
14年	11.2	-	60.0

表2 小豆におけるオオタバコガの発生状況(9月中旬調査)

年	寄生株率 %	25株当虫数 頭	発生ほ場率 %
24年	7.5	2.4	87.5
平年値	7.0	2.0	56.3
23年	8.5	2.5	75.0
22年	11.5	3.1	75.0
21年	2.5	0.8	25.0
20年	5.6	1.5	50.0